

日本社会福祉学会第 60 回秋季大会報告

第 60 回秋季大会事務局長 石川 久展（関西学院大学）

日本社会福祉学会第 60 回秋季大会は、2012 年 10 月 20 日（土）と 21 日（日）の 2 日間、関西学院大学上ヶ原キャンパスにおいて開催されました。心配されていた台風の影響もなく、2 日とも秋晴れとなり、台風による雨の恵みを受け、自然の輝きをさらに増した美しい上ヶ原キャンパスで記念すべき第 60 回秋季大会を開き、皆様をお迎えできたことは、開催校としても大きな喜びでした。

大会テーマは、「日本社会の再生と社会福祉学の役割－人・地域・制度のつながりにおける社会福祉の領域と境界－」でした。この背景には、一昨年の 3 月 11 日に起こった東日本大震災とそれに伴う福島原発事故がありました。実行委員会において本大会テーマの検討をし始めたまさにその時にこの大震災が起こり、その影響は被災地に留まらず、共生の基盤が失われた日本の社会全体に及んだこと、また大震災以外にも現在の日本社会には格差・貧困問題をはじめ数多くの重要課題が山積していることがあり、このような社会状況の中で日本社会をいかに再生していくのか、社会福祉学の観点から議論することを大会テーマとした次第です。

そのために、記念講演は、室崎益輝氏（関西学院大学総合政策学部教授・災害復興制度研究所所長）に「日本社会の再生と社会福祉学の役割－東日本大震災後の復興を通して日本社会の再生を考える－」というテーマでしていただきました。室崎氏は、社会福祉の視点から行政、コミュニティ、ボランティア、企業が協働する社会を構築することの必要性や様々な分野が協働して減災や福祉に取り組むシステムをつくることの必要性を訴えられ、大会テーマに相応しい講演がなされました。また、開催校企画シンポジウムとして、「日本社会の再生と社会福祉学の役割」に関するシンポジウムを開きました。経済学的な視点から、地域福祉の実践視点から、理論的・歴史的視点から各シンポジストに発題をしていただきました。開催校企画シンポジウムは、2 日目の午後の最後のプログラムであったにもかかわらず、200 名以上と多くの参加者がありました。さらに、昨年度の大会に引き続き、開催校と学会の共同による東日本大震災特別企画シンポジウム「提言：生活の再建に向けた社会福祉学の役割」を開催しました。被災地である宮城・岩手からのシンポジスト 4 名にそれぞれの立場から生活の再建に向けた提言を語っていただきましたが、150 名以上と多数の参加者がありました。以上のプログラムを通して、大会テーマである日本社会の再生について見識を深めることができたのではないかと思います。

学会本部主催の国際学術シンポジウムは、「多様性と人権、そして社会福祉教育の課題」というテーマで大会記念講演の後に開かれましたが、日本、中国、韓国から計 5 名のシンポジストが現在の社会福祉教育のあり方について発題をし、意見交換を行いました。

本大会では、初企画のプログラムが 2 つありました。初日 20 日（土）の午前中に開催された「若手研究者のためのワークショップ」と「研究倫理委員会特別企画研修」です。2 つとも初めて開催するプログラムであり、準備する事務局サイドとしても若干不安はあっ

たのですが、どのプログラムもほぼ満席状況であり、また、内容的にも「良かった」との話しを数名の参加者から伺ったこともあり、盛況であったと評することができます。特に質的調査のワークショップは、会場に入りきれないほどの参加者がありました。次年度の大会でも若手研究者のためのワークショップは引き続き開催される予定ですので、一層の発展を期待したいと思います。

研究発表についてですが、本大会では、特定課題セッションは5分科会(19 演題)、口頭発表は55 分科会(244 演題)、ポスター発表(85 演題)が報告され、2 日間にわたって各会場で活発な研究討議がなされました。全体として、昨年大会よりも研究発表数が1割以上増えており、今後も数多くの発表がされることを期待したいと思います。

2日間の大会延べ参加者数は、事前申込み参加者が761名、当日参加者が305名で合計1066名と、一昨年の日本福祉大学での1161名までは届かなかったのですが、昨年大会(淑徳大学)の1009名と比べると、若干の増加でした。なお、事前申込参加者は、761名(申込み者数は840名)と昨年度の678名(申込み者数は748名)と比べて1割増しであり、事前申込制が着実に根付いてきていることを実感しました。

大会運営においては様々な改善点や反省点がありましたが、改善策や対応策も含めて、次期開催校である北星学園大学への引き継ぎを先日行ったところです。来年度の大会運営をよりスムーズに行うために、会員の皆様方に今後是非ともご協力いただきたい事項がいくつかありますので、それらについてお知らせいたします。

1. 事前参加申込みと同時に、参加費等の納付をお願いします。

事前参加申込みをされた方で参加費及び昼食代を納入されなかった方が80名近くおられました。このうち半数近くの方が大会に参加されなかったので、用意していた昼食が40近く余る結果となりました。このようなことが今後起こらないようにするためにも、どうぞ事前参加申込みと同時に参加費等の納付をお願いします。

2. 口頭研究発表・ポスター発表の申込み者は「辞退」がないよう事前準備をしてください。直前の健康上の理由やその他緊急を要するものはしかたありませんが、できる限り直前の発表辞退が無いようご協力ください。

3. 発表要旨の書式は大会案内の例示に従ってください。

大会案内には「応募ページからWord ファイルをダウンロードして、そのWord 形式のまま原稿を作成(上書き)して下さい」とお願いしましたが、来年度もご協力くださいますようお願いいたします。

最後に、大会全体を通じて、準備や配慮が行き届かなかったところもあるかと思いますが、白澤政和前会長をはじめとする学会理事や学会事務局の皆様、また、参加された会員の皆様のご協力により、無事終了することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。